



※ボイス数

①	セラ	1	7	4	ボイス
②	ジスニア	1	6	0	ボイス
③	アイシヤ	1	6	0	ボイス
④	モブ×6キャラ	2	9		ボイス (2 / 7 / 7 / 3 / 4 / 2 / 3 / 1)
【合計】		5	1	9	ボイス

※ウイル

2
5

ボイス

【MOB…アニーフィオナーユーノーマーレジーナエリー】

【左…アイシヤ

中央…セラ

右…ジスニア】

※ジスニアのみ旧ラフです※

-NTR 共通台本-

≡ ▼ ■ NTR 音声ドラマ「アップデート版

≡ ▼ 【0101 トラック名】セラとウィルの結婚式

【収録メモ】次の文章のみ。モノローグでお願いします。

cha0001 ウイル 「(M)俺、ウィル・ターナーの胸は高鳴っている。幼なじみのセラと、結婚式を挙げ

る時をようやく迎えられたのだから——」

cha0001 セラ 「わあっ……！ 真っ白な鳩があんなにたくさん！ 気持ちよさそうに空を飛んでいる

わ……まるで私達をお祝いしてくれてるみたい」

cha0002 ウイル 「サプライズ演出、喜んでもらえたかな？」

cha0002 セラ 「ええ、とっても！ ああ、本当に素敵……うふふっ」

cha0003 ウイル 「セラの笑顔が見られて、オレも嬉しいよ。やってよかった」

cha0001 アイシヤ 「おめでとお〜！ セラすっごく綺麗なお〜！」

cha0001 ジスニア 「おふたりとも！ おめでと〜ございますー！」

cha0001 アニ&ユーノ&フィオナ(MOB) 「団長！ おめでと〜ございますー！」

cha0003 セラ 「アイシヤ、ジスニア……戦士団のみんなも……あは、ダメ……泣いちゃう……ぐすっ

……はぅぅ……」

cha0004 ウイル 「はは、参ったな。俺まで泣けてきちゃうじゃないか」

cha0004 セラ

「えへへ、ごめん。ぐすっ……でも幸せすぎて、えぐっ……夢みたいで……私」

cha0005 ウイル

「夢じゃないよ、セラ。俺たちは今日夫婦になったんだ。さあ、みんなにこの幸せを分けに行こう」

cha0002 アイシヤ

「ウイルスうう！ いつになったらここに来るのお〜？」

cha0006 ウイル

「ごめんごめん、今行くから！」

cha0003 アイシヤ

「よっ！ 焦らし上手うー！ セラのコトもおく、そうやって焦らしてたのねえ〜？」

cha0007 ウイル

「ぼっ、ばか！ 確かに、プロポーズまでは時間がかかったけどさ」

cha0005 セラ

「式を挙げることを遅らせたのは私だったからね。……ごめんね、ウイルス」

cha0008 ウイル

「大したことじゃないよ。大丈夫。さあ、みんなのところに行こう、セラ」

cha0006 セラ

「……うん！」

≡ 【収録メモ】 ここでセラ、ウイルスが参列者の元へ合流します。

cha0002 ジスニア

「改めて、おめでとうございます。セラ、ウイルス」

cha0007 セラ

「ジスニア、ありがとう」

cha0009 ウイル

「来てくれて良かったよ。ジスニア、最近いろいろと忙しいみたいだからさ」

cha003 ジスニア
「ふふっ、来ない、なんて選択肢があるわけ無いですよ。大好きな二人の、晴れの日なんですから」

cha004 アイシヤ
「かたいかたあい！ なにもお、真面目ぶっちゃってえー！」

cha004 ジスニア
「これが普通なんです……ってアイシヤ、どこからそのお酒持ってきたんですか？」

cha005 アイシヤ
「どこからって、そこからよおー？」

cha008 セラ
「あ……それ、ウィルがやりたいって言ってた、シャンパンでシャワーしちゃうやつじゃない」

cha010 ウイル
「えっ！？」

cha006 アイシヤ
「ん〜美味しい！ ほら、みんなの分も持ってきてるから飲むわよ〜！ それ〜いっぽ〜んっ」

cha011 ウイル
「うわあああ！ あああ普通に開けるなあ！ 普通にグラスに注ぐなあ！ 待って待って、俺の計画！ 俺の計画だよ！？ 俺の夢なんだよ！ ポンッてして、ぷしゃあああッて！ くそお！ 勝利の瞬間が台無しだあああ！」

cha009 セラ
「私はこの結末を予想してたわ……。んくっ……んん〜、このシャンパン美味しいわね」

cha007 アイシヤ
「そうよね！ こんな美味しいシャンパンを撒き散らすなんてもったいないわあ〜。はいはい、ジスニアも！」

cha0005 ジスニア 「わわわ私はお酒は苦手——」

cha0008 アイシヤ 「いいからいいから」

cha0006 ジスニア 「ん、んぐっ、んんんっ!!」

cha0012 ウイル 「あーあーそんなに飲ませたら……」

cha0010 セラ 「ジスニア、ペロペロになっちゃう……」

cha0007 ジスニア 「んぐっ、ぷはあっ！ あれえ、空が目の前に……どうしてですかあ……？ ふええ……？」

cha0009 アイシヤ 「はいはい。テイステイングも済んだことだし！ 改めて、乾杯するわよお。みんな、グラス持って」

cha0013 ウイル 「俺のシャンパンシャワーは無かった事になったんだな……」

cha0010 アイシヤ 「「ら」「ら」、めでたい日に「ちや」「ちや」言わない！ 二人の新たな門出に「」かんぱああい！」

cha0008 ジスニア 「か、かんぱあい……ふにやあ……」

cha0011 アイシヤ 「ほらああ！ そこおお！ あなた達も飲みなさあ……い！ ジスニア、いくわよっ」

cha0009 ジスニア 「え、え、えええっ……!？ アイシヤあああ！ 待ってくださいいい……!」

cha0011 セラ 「あーあ、団員たちに絡みに行っちゃったわね……」

cha0014 ウィル 「これは、いつもと同じパターンだな。ははは、まったく。笑っちゃうくらい俺達らしいや」

cha0012 セラ 「そうね。新しい時間がスタートしても、私達はずっと変わらないわね」

cha0015 ウィル 「……セラ」

cha0013 セラ 「ん？ 何よ、急に真面目な顔して」

cha0016 ウィル 「……俺、必ずセラの事を幸せにするから」

cha0014 セラ 「つつウィル……！ ……………うん。これからは幼馴染じゃなくて、妻として、よろしくね……」

cha0017 ウィル 「俺も、夫として精一杯務めを果たすから。……はやく、父親にもならないとな」

cha0015 セラ 「え？ ええ……そう、ね」

cha0018 ウィル 「はは、ちょっと気が早かったかな。……でもセラとの約束、守り抜くことが出来てよかった」

cha0016 セラ 「う、うん……。ありがとう、ウィル」

「(M) 夫婦になったからこそ、思いやりの気持ちを強く持たないと。どこか不安げな顔をするセラを見て、そう思うのだった」

【収録メモ】 以下、モノログでお願いします。

cha0010 ジスニア

「(M) 山賊の長クローズ——いいえご主人様が戦士団の指南役として町に来てから、私たちの周囲は少しずつ変化していきました」

cha0011 ジスニア

「(M) 私たちも含めて、町で何かしらの権威をもっている女達をその手練手管で骨抜きにして、影響力を強めていったご主人様は、町を自分の思うとおりに作り替えていたのです」

cha0012 ジスニア

「(M) 表向きは変化がないように見えて、その裏では、確かに変わっていく。人も、場所も、雰囲気も……。戦士団はきっと、その影響がもつとも色濃く出ていると言えるでしょう」

8

cha0013 ジスニア

「(M) だって私たち……戦士団を率いる者達が積極的に、ご主人様の望みを叶えるために尽力しているのだから、当たり前かもしれませんけどね……ふふふ」

【収録メモ】 以上、モノログ終了です。

cha0014 ジスニア

「……特別鍛錬部屋、ようやく完成にこぎつけましたね」

cha0012 アイシヤ

「ご主人様に壁尻部屋を作れって言われたときはどうなることかと思ったけど、案外なんとかなるものねえ」

cha0015 ジスニア

「苦勞の甲斐あって、良い部屋になりました。団員たちがお尻を突き出す姿……早くみたいです」

cha0017 セラ 「ねえ、やっぱりやめにしない……？」

cha0013 アイシヤ 「もう、またあー？ ここまで来てやめられないわよね」

cha0016 ジスニア 「何度も言うように、ご主人様のことだからという以外にも、団員の子たちの為でもあるんですよ」

cha0018 セラ 「分かってはいるのよ……分かっては……」

cha0014 アイシヤ 「大丈夫だからあ、ね？ ほら、みんな外で待ってるわよ。はやく号令をかけて？」

cha0019 セラ 「……ええ。……入ってこい！」

cha0002 アニ&ユーノ&フィオナ(MOB) 「(がや) えっ、なに……？ ここって……？ 何がどうなって……？ など」

cha0020 セラ 「静かに！ 今日はみんなに特別鍛錬をしてもらう！ 苦境に立たされた時、戦況が変わるまで耐え抜く力が無い者は真なる戦士とは言えない！」

cha0021 セラ 「みんなは戦いにおいて優秀だ。だから今日行うのは戦うための鍛錬ではない……。さらなる高みに至らんとする特別鍛錬である！」

cha0001 フィオナ(MOB) 「団長……あ、あの……えっと……その……」

cha0001 アニ(MOB) 「フィオナ。ここは私が……」

cha0022 セラ 「何だフィオナとアニはこの特別鍛錬が不服か？」

cha0002 アニ(MOB) 「いえ……そ、その、不服という訳ではないのですが……。この恥ずかしい格好に、なにか意味はあるのでしょうか……？」

ニ 【収録メモ】あるわよ以降、思わずボソリと小さな声で呟く感じです。

cha0023 セラ 「意味……？ え、ええ、もちろん、あるわよ……。意味なんて壁尻する以外に——」

cha0017 ジスニア 「私から説明しましょう。戦況は常に変化し、想定通りの戦場がいつもあるとは限りません。困難な事態に直面し、前に進めなくなった時でも、戦士として戦い抜けるようにするための特別鍛錬ですよ」

cha0003 アニ(MOB) 「し、しかし、こんなお、お尻丸出しな戦場ってあり得るのでしょうか……」

cha0018 ジスニア 「アニさん、私達の戦いを思い出してください。不逞の輩との戦いであれば、大いにありますよ」

cha0015 アイシヤ 「そうそう。隊列を組んで突撃いゝばかりが私達の戦いじゃないものゝ。苦境に立たされた時でも、あなた達がちゃんと帰って来られるようにしてあげたいのよおゝ」

cha0024 セラ 「そ、そうだ！ 強い戦士、強い女は一見突拍子もない鍛錬でも、卒なくこなして見せるものだ！ 私はそれが出来ないような軟弱な女をこの戦士団に入れたつもりはないぞー！」

cha0019 ジスニア 「うふふ……まずは安全の為、全員このおくすりを受け取って飲むんですよ。飲み終わったら順番に上半身を壁の穴に入れてください」

cha0025 セラ 「さて……どの子から鍛えてあげようかしら……？」

cha0020 ジスニア 「私はユーノさんにします。小振りで引き締まったお尻が呼んでいる気がしますので」

cha0026 セラ 「私は、フィオナを庇って質問をしたアニね。罰の意味はないけど、目に付いちやったもの」

cha0016 アイシヤ 「あらあら、セラったら意地悪さんねえ」

cha0027 セラ 「そんなじゃないってば。そういうアイシヤは誰にするの？」

cha0017 アイシヤ 「そうねえ、フィオナちゃんのモジモジ揺れてるお尻なんかグツと来ちゃうわねえ。ほらほら見て。ちょっと震えちゃってるわぁ……。うふふ、可愛がつちやうわよ
お」

cha0028 セラ 「アイシヤも大概意地悪じゃない……」

cha0018 アイシヤ 「選んだ理由としてはジスニアとあまり変わらないと思うけどお？」

cha0021 ジスニア 「みなさん準備ができたみたいです。ああ……壁にお尻が並んだ光景はなかなかくるものがありますね」

cha0019 アイシヤ 「うーん！ ご主人様が作れと言うのも納得よねえ。お尻だけ見ても、こんなに差があるなんて知らなかったわぁ。ぐへへっむゅあー」

cha0029 セラ 「さあさあっ、感想はそれくらいにして私達も準備よ」

cha0020 アイシヤ 「あっ、この双頭ペンズバンド、懐かしいわあ。ジスニアにお尻の穴を熱烈に責められてえ、私失神しちゃったのよねえ」

cha0022 ジスニア 「ふふっ、これを着けると思い出しますね。はあ……あの時のアイシヤ、すごくエッチでした……」

cha0021 アイシヤ 「だって、ジスニアったら遠慮なしに突くんだからあ……」

cha0030 セラ 「ごら！ ふたりとも、さっさと始めるわよ！ 着剣！ は、あん……」

cha0022 アイシヤ 「あんっ、着剣ん」

cha0023 ジスニア 「んはあ……着剣、しました……」

cha0031 セラ 「さあ……いくぞ、鍛錬開始だ！ 突撃！」

cha0023 アイシヤ 「フィオナちゃん、動いちゃだめだからねえ……んっ……しょ」

cha0002 フィオナ (MOB) 「ああっ！ そんなお尻、驚掴みにしないでください……」

cha0024 アイシヤ 「はあん、フィオナちゃんのおマンコ、もうぐちよぐちよじゃない。おくすりの効果バツチりね。それじゃ早速……入れてあ・げ・る。それえ」

cha0003 フィオナ (MOB) 「あ、あぐううう……キツイ……ですうう……」

cha0025 アイシヤ

「うふん、そんなにすぐ弱音を吐いちゃっていいのお？ ほら、少しずつ入ってるわあゝ。こんなにピッチリ広がって……でも、頑張って啞えこんで偉いわねえ」

cha0026 アイシヤ

「いっぱい腰をフリフリして、はふうっ……気持ちよくしてあげるからっ……うふふふっ……」

cha0024 ジスニア

「アイシヤ、楽しげで何よりです。さてユーノさん、まずはお尻を優しく撫でていきますよ」

cha0001 ユーノ (MOB)

「あぁっ！ ん、ん、んっ！ え、なに……ふううんっ！ 何このザワザワする感じで……ジスニアさぁん……」

cha0025 ジスニア

「くすくす。少し指先で触れただけなのにビクビク震えて……なんて敏感なお尻なんでしょう……。こんな調子では、敵の術中にハマってしまいますね」

cha0026 ジスニア

「おまんこの一番奥まで一気に入れちゃいます。しっかり耐えるんですよ。……んっ、ふううんっ！」

cha0002 ユーノ (MOB)

「はぐうんっ!? ……はひっ、はひい……！ ん、んぐうう……まけま、せん……っ！」

cha0027 ジスニア

「ああ……そうですよ。快感に襲われたとしても、簡単に屈してはいけません。さあ！ じっくりねつとりと攻めてあげますからね……！ ん、んんっ……!!」

cha0032 セラ 「……アニ、まだ何もしていないのに膝がガクガクしてるわよ。まるで生まれたての子鹿ね」

cha0004 アニ (MOB) 「あっ……あ……団長……わたし……身体が……おかしいんです……！」

cha0033 セラ 「くすりの効果に翻弄されるだなんて、情けないわよ。私が鍛え直してあげる。いくぞっ……ふんっ！」

cha0034 セラ 「入れた途端呆けた声を出すなっ！ んくうつ、ふっ……！しっかり意識を持って、歯を食いしばれっ！ 何をしている！ よろけている場合じゃないぞっ！ くうつ！ んんっ！」

cha0035 セラ 「実戦はもっと過酷で容赦ないんだぞっ！ ……ふっ、っっ……んっ！ そらっ、しっかり体を支えるんだ！ 一瞬の油断も、命取りになるんだっ！ はあっ、っっ、ふうっ！」

14

cha0027 アイシヤ 「ああっ……セラ、いきなりそんなに速いピストンしてえっ……。アニちゃんのお汁が、あふうんっ……びしゃびしゃ垂れちゃってるじゃないのっ……」

cha0028 ジスニア 「んっ、んっ……ああっ……本当ですね……内腿までダラダラと垂れてエッチです」

cha0036 セラ 「はっ、ふっ……こんなだらしない身体では……強い女にはほど遠いわっ……！ しっかり立てっ！ んっ、尻を突き出せ！ はね除けるくらいの心構えをしろっ！」

cha0028 アイシヤ

「んっ、ふふっ……セラったら、ああやって自分を鼓舞してないと、はううんっ……快楽に吞まれちゃうのね」

cha0029 ジスニア

「ええ……くうっ……この鍛錬がご主人様の言いなりだという事にしたくないのでしょ
う……はっ、うっ……」

cha0029 アイシヤ

「ウィルと結婚したし、今までみたいには行かないってことねえ。ウィルをもう悲しませない、ウィルのためだけに生きるって、ご主人様との関係も見直したみたいだし……
まあでも、きつと心の落としどころは見つかるわよね」

cha0004 フィオナ (MOB)

「あ……アイシヤさあん……もつと……ああ……もつとください……。欲しいんですう
う……止めちゃ……やですう……はあうう……」

cha0030 アイシヤ

「ああっ、フィオナちゃんの可愛いお尻、放ったらかしにしてたわ。今はあなたのお尻
しっかり可愛がつてあげなくちゃ……それっ、ふっ、んっ、んっ……あ、あっ……」

cha0031 アイシヤ

「かわいいピンクのおまんこの中……ペニスバンドでたくさんでなでしてあげるうっ
……あ、んっ、すごい締め付けなのが伝わってくるわあっ……」

cha0032 アイシヤ

「んっ、ううっ……腰を打ち付けるたびっ……あ、ああっ私の膣内の棒っ……んっ、ん
っ……ぐんぐんきちゃうううっ……んっ、ふ、ああ……んっ、うっ……んああっ」

cha0030 ジスニア

「アイシヤったら……自分ですっかり感じちゃってるじゃないですかあっ……。これ
じゃ、鍛錬の意味がありませんよおっ……ん、ふうっ……」

cha0031 ジスニア

「あ、ああっ……だめっ……私もっ、ああっ……我慢できなくなってきました……はっ
っ、はっ……んっ、んっ！」

cha0032 ジスニア

「腰をぐりぐりっ……角度を変えて押しつけて行きますよっ、んっ、ふううううっんっ
……。ああっ、ゴリゴリきちやいますううっ……あ、あああっ……気持ちいいっ……
…！」

cha0003 ユーノ (MOB)

「ジスニアさあっ……あ、んんううだめですっ……私のあそこ、広がっちゃいますうう
っっ！」

cha0033 ジスニア

「ああっ……あそこっつて、どこですかあっ……あううっ……おまんこですかあ？ ユー
ノさんのぐちよぐちよおまんこですねっ？ ん、ふ、ああっ、あ、あああっ！」

cha0037 ヤラ

「ちよっとっ……アイシヤもジスニアもっ……何やってるのよっ……！ くっ……仕
方がない、一気にたたみかけるぞ！ あ、あ、あ、あ、んっ、んっ、くううん
っ！」

cha0038 ヤラ

「ふ、あ、んくああああああああああっ……！」

cha0033 アイシヤ

「はあ……はあん……ふああ……はあ……っ。これは、なかなか……クセになりそうよ
お……ん、ふう……」

cha0034 ジスニア

「ええ……いい鍛錬ですね……はあ……ん……他の子達も、楽しませてくれそうですっ
……っふふふっ……」

cha0039 セラ

「んんっ……ふう……はぁ……私達も、まだ甘いわね……くっ……！ 次こそは、最後まで強く気高くいなくちや。……よし、鍛錬を続ける！ 次に誰が尻を差し出すんだ！ 突いて突いて突きまくるぞ！」

cha0034 アイシヤ

「うふふ……セラったら。すっかり火が付いちやったわね」

cha0035 ジスニア

「ええ。心の落としどころ……もう見つけちゃったみたいですね」

cha0040 セラ

「さあいくぞっ！ 構えて……突撃っ！」

cha0020 ウイル 「セラ、もうちょっとこっちにおいで」

cha0041 セラ 「ん？ うん……。あ、うふふ。ウイルスに抱きしめられていると、安心するわ……」

cha0021 ウイル 「それは良かった。セラ、俺は小さい頃から、セラと二人で幸せな毎日と一緒に過ごす未来を、夢見てたんだ」

cha0022 ウイル 「そして俺はね、夢が叶ったんだよ。セラへの想いは一度だって無くしたことなくて無し、大好きなセラとお互いの温もりを感じて眠る……」

cha0023 ウイル 「……そんな幸せな夢が叶ったんだ。幸せ、だなあ、ふわああ」

cha0042 セラ 「もう、あくびが無かったら100点だったのに」

cha0024 ウイル 「俺は、セラと、家族に、なりたかったんだ……」

cha0043 セラ 「……あれ、ウイルス……ウイルス？」

cha0044 セラ 「あつという間に寝ちゃった。全く、ウイルスったら、満足そうな寝顔してるわね。……私は、まだ……なのに、な」

ニ【収録メモ】次の文章のみ。モノログでお願いします。

cha0045 セリ

「(M)結婚式を挙げてから、毎晩ウィルに求められるようになった。ウィルとの営みは……正直、物足りない。事を終えウィルが眠ったあと、ひたすら自分を慰める日々を送っていた」

cha0046 セリ

「あ……あふう……んんっ……ふ、あ、ああ……んっ……」

cha0047 セリ

「はあ、ああ……自分の指1本じゃ足りないわ……2本……ううん、もつと、もつと太いの……太いのが、欲しい……ああ、私ったらどうしちゃったの……っ……あ、あっ……」

ニ【収録メモ】次の文章のみ。モノログでお願いします。

cha0048 セリ

「(M)ウィルに愛されるのはとっても幸せ……それは間違いない。でも、きっとウィルの愛し方は優すぎる。私は……もつと、体の奥が痺れるような快樂を知っているから……」

19

cha0049 セリ

「んっ、んあっ、あっ、あっ、あ、ああっ……いつちやう……クローズ……クローズのおちんぼでイクのおお……っ！ んんっんんん……っ……！」

cha0050 セリ

「はあっ……んっ、あふ……うう……はあ……はあ……ああ……うそ、でしょ……私……どうとう、あの人の名前を……」

cha0051 セリ

「ウィル……。うう……私……ダメよね、こんなの……ごめんね、ウィル。ごめんなさる……」

ニ【収録メモ】次の文章のみ。モノローグでお願いします。

cha0052 セラ

「翌日私は、アイシャとジスニアの元に相談へと向かった。私は、ふたりにどんな返答をさせようとしているのだろうか……」

cha0036 ジスニア

「……で、折り入った話って何でしょうか？」

cha0035 アイシャ

「私達ふたり以外には聞かれたくない話、かしらあ？」

cha0053 セラ

「そうなの……。実は、その……夜ね、ウィルと……してもね……」

cha0036 アイシャ

「あーあー、はーい。皆まで言わなくてもいいわあー」

cha0037 ジスニア

「思いの外早かったですね」

cha0054 セラ

「え……どういふこと？」

cha0037 アイシャ

「だって、ねえ……。あんなに気持ちよくて幸せなのを知った後にいー、普通のエッチで満足できる訳がないわよおー」

cha0038 ジスニア

「ご主人様は並大抵のうまさではありませんからね。セラが夫婦生活で悩むことは、ずっと前からアイシャと予測していました」

cha0055 セラ

「はあ……そう。二人には、こうなることはお見通しだった訳ね」

cha0039 ジスニア
「いっそ主人様に抱かれるのはいかがですか？ あっという間に満足できるかと思ひますよ」

cha0056 セラ
「それは、ダメよ！ ウイルを裏切ることになってしまうもの」

cha0038 アイシヤ
「うーん……じゃあ我慢するしかないわねえ……。まあきつとウイルスだって、じきにうまくなるわよ。あの子、頑張り屋さんだからね」

cha0040 ジスニア
「ええ……？ いくら頑張っても、ウイルスは主人様には到底かなわないかと」

cha0039 アイシヤ
「それはもちろんそうよ？ ご主人様と同じレベルになることは無理でも、ある程度はいけるわよって意味」

cha0041 ジスニア
「なあんだ、そういうことでしたか」

cha0057 セラ
「ちよつとお……他人事だと思つて好き勝手言ってくれるじゃない……？」

cha0040 アイシヤ
「ああん、セラが怖い目で私を睨んでいるわあ」

cha0058 セラ
「んもう……！ ……ふふっ、なんだか、悩んでることが馬鹿らしくなってきたわ。いつもと変わらない二人となると、元気が湧いてきたかも」

cha0042 ジスニア
「それは良かったです。万事うまく行くことは少ないですから、楽しいことを糧にちよつとずっ、ですよ」

cha0059 セラ 「ジスニア……それ、なにかの受け売りでしょ」

cha0043 ジスニア 「ええ、今読んでいる本に書いてありました」

cha0060 セラ 「自己啓発本が好きなのもあいかわらずなのねえ。……でも、本当にその通りかも。新婚生活は、夜だけじゃないものね！」

cha0041 アイシヤ 「そうそう。あつ、我慢できなくなったら、私が気持ちよくしてあげるわよね」

cha0061 セラ 「アイシヤったら……せつかくいい感じで納得したのに。はあ……いつもと変わらな過ぎるのも、考えものだわ」

cha0042 アイシヤ 「いいのいいの。それが私たちのよ」

cha0062 セラ 「あ、う、そうね」

cha0063 セラ 「そこまで！ 今日の居残り鍛錬はここまでよ。明日もこの調子なら、もっと厳しくするわよ」

cha0065 フイオナ（MOB） 「あ、ありがとうございました……ぐす……」

cha0064 ジスニア 「セラ。今の指導、あんなに厳しくしなくても良かったのでは――」

cha0064 セラ 「口を出さないで！ ……つつ、ぐめんさい、ジスニア……私……」

cha0065 ジスニア 「大丈夫です。片付けは私がやっておきますので、セラは先に執務室へ戻って休んでいてください」

cha0065 セラ 「……そうさせてもらうわ」

ニ 【収録メモ】 以下、モノログでお願いします。

cha0066 セラ 「（M）アイシャとジスニアに相談をしたにもかかわらず、欲求不満になっていく日々。最近では、そのイライラをとどころかまわずぶつけるようになってしまった」

cha0067 セラ 「（M）戦士団の女の子、ジスニア……はてやウィルにまでつらく当たってしまう。そんな自分に罪悪感が募って、むしゃくしゃしてたまらない。足早に執務室に戻ると、机の前で大きくため息をついてしまった」

ニ 【収録メモ】 以上、モノログ終了です。

cha0068 セラ 「はぁ……………ん？ ティーセットと一緒に…………メモ？ 何かしら…………？」

cha0069 セラ 「良いカモミールティが手に入ったから、お裾分けよ。これでも飲んでゆつくりしてね、アイシャ——って、……アイシャにも随分と気を使わせてしまってるのね」

cha0070 セラ 「それもこれも…………うう…………あの人に…………抱かれてないから…………ああもう…………！ 私、どうしちゃったのよ」

cha0071 セラ 「あ…………あ…………あれ…………？ 手が勝手に…………はぁ…………あう…………う、んっ…………エッチなことしちゃう…………はぁ、うううっ…………いやあっ…………」

cha0072 セラ 「はぁ…………ん、んうあっ…………痺れるような…………身も心も満足できるセックス…………したい…………んっ、ふあっ…………あの人なら…………クローズなら、この身体を満足させてくれるはずなの…………あんっ…………クローズううう…………！」

ニ 【収録メモ】クローズが入ってくる。

cha0073 セラ 「え、ああっ！ クローズっ…………！？ なんでここに…………！？ べ、別にあなたの事なんか呼んでないわ……。右手？ あ…………これは…………その、昨日のウィルとエッチした事を思い出して…………」

cha0074 セラ 「う、嘘じゃないわよ！ ウィルは優しいし、ちゃんと、満足だって…………してるもの」

cha0075 セラ 「前はあなたに沢山犯されて、それは、気持ちよかったけど…………でも、今はもう違うのよ。…………だって私はウィルと結婚したし…………ウィルとの約束を守らないといけないの…………だから、ね？ クローズ。お願い…………」

cha0076 ヤリ 「お願いだから出ていってくれるかしら……」

cha0077 セリ 「……あつ。な、なんでズボンに手を、かけ……て……ダメよ。そんなの見せつけたって、私には、ウィルが……。ビンビンに勃起させたって、ダメなものはダメよ……。早くしまつて、執務室から出ていって！」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0078 セリ 「(M) ニヤニヤしながら、見せつけるように自分のモノを上下にいやらしく扱く。その姿から、目が離せない……思わずゴクリと生唾を飲み込んでしまう」

cha0079 セリ 「(M) 先っぽからとめどなく我慢汁があふれてきている。オスの匂いが鼻について、子宮がきゅんきゅん疼いてしてしまう」

cha0080 セリ 「(M) あんなモノで奥を突かれたら、それだけでイってしまいそう。ああ、入れて欲しい……今、あなたが私を襲ってくれたら何も考えなくても済むのに……」

【収録メモ】以上、モノログ終了です。

cha0081 セリ 「あ、え？ おっぱいで……はさめばいい？ そうね……セックスじゃなければ……いい……のかしら……。そう、おっぱいならセックスじゃないもの。約束を違えたことには、きつと……なら、ないわね、ええそうよ」

cha0082 セリ 「ん……はあ、あ……！ すごく熱くておっぱいが火傷しちやいそう……」

cha0083 ヤリ 「んっ……んっ……んあ……んはあ……おっぱいの中でビクビクしてるわ……ふあ……
あんっ……ど、どうかしら？ 私のおっぱいは……んっ……んっ……んあ……はんん
っ」

cha0084 ヤリ 「あ、ふふ、ビクビクって返事……あふ……してるう……んっ、んっ、んふう……おっ
ぱいから出てる先っぱが、あふ……ふう……んんっ、寂しそう……ぺろっ……れろれろ
……」

cha0085 ヤリ 「んん？ 不思議そうな顔をしてるわね……？ 口でしていいのかって？ ああ……そ
うね、あの時は、口は守り抜くって約束だったけど、今は違うもの」

cha0086 ヤリ 「だから、何も不思議じゃないでしょ。ん、はああっ……先走りが、れろ、んはあ……
しよっぱくて、美味しい……んちゅ……ぺろれるる……んふあ……もつと、もつと
ちょうだい……あむう……ん……んふう……じゅぷっ」

cha0087 ヤリ 「じゅぷぷっ！ ふふあ……はあ……ああ、あっ、んぷっ！ くぷぷっ！ イキそうな
のねっ！ んっ、んっ！ はふう、じゅぷっ！ ちゅぷんっ！」

cha0088 ヤリ 「んぷっ！ んふうっ！ 出してっ！ んぷぷっ！ じゅぷっ！ だしてえっ！ ちゅ
ぱっ！ じゅぷ！ んんっ！ あふっ、ふうううううううっ！」

cha0089 ヤリ 「んぐ……ぐっ……ぐっ……ふはあ……濃くてオス臭くて……それがこんなに……
んく……たくさん……んふああ……」

cha0090 セラ

「うう……あくまでもあなたは何もしないっていうのね……あふ……これじゃまるで、
ん……私があなただオナニーして、る……みたい……」

cha0091 セラ

「……はっ！ そうよ。オナニーをすれば良いんだわ。そう、これはオナニーなのよ…
…だから、この棒を使ってオナニーしても……いい、のよね……」

cha0092 セラ

「いい、なら……っん……迷う必要なんて……ふう、んっ……ない……はあ、ん……も
う、どうにかなってしまいそう……ああもうっ、パンツを脱ぐのもどかしいわ……
っ！ んっしょ……ああ、早く……はやくう……」

cha0093 セラ

「んう……あ、んん……ああ上手く入らな、いいんん……っ！ ああん、違うわよ。こ
れは騎乗位セックスじゃ、ないものおっ……ううんっ……ひとりでする、オナニー
なの……」

cha0094 セラ

「はあああんっ！！ あっ、ああっ……いつきに……あふ、奥までええ……っはあ
……入れただけで、んふう……イッちゃっ、たあ……」

cha0095 セラ

「あん……んんっ、んふう……奥まで満たされるこの、んんっ！ この感じ……ん
っ、あんっ……」

cha0096 セラ

「んっ、んっ、くうんっ！ はあっ、これがないと、んふあっ！ ああっ！ あんっ！
……もう、満足出来ないものお……んああっ！ はああんっ！」

cha0097 ヤラ

「あんっ！ ああっ、またっ、イッちやいそ……くうんっ！ ずっと、おまんこにほしかったのおっ、はあああんっ！ これがないと、私、ああんっ！ んくうっ！ わたし、もうだめなのおっ！」

cha0099 ヤラ

「あああっ！ イク！ イクううっ！ ふふあああああああっ！ ああああああっ！」

cha0100 ヤラ

「ああっ！ ああっ！ やあん、とめ、はああ！ とめてえっ！ これは、んくうっ！ オナニーなんだからああっ！ ふへっ、あんっ！ イキっぱなしでえ、んぐ、ふあああっ！ ダメよ動いちゃ、あああんっ！」

cha0103 ヤラ

「あっ、あっ、ああっ！ んっ、ひ、あああ……はあんっ！ ふああっ！ あああっ！ ひああうっ、ううああ……！」

cha0106 ヤラ

「ふあ、あ、っ……んっ、あ、ああええ……？ なんで？ なんで止めちやうのっ……？ やだっ……やだああ……とめちやっ、だめええ……」

cha0107 ヤラ

「んんううっ、自分から、動いちやうから……！ うふっ、うふふ……！ ん、ふ、ううう……オナニー、続けちやうのっ……！ 私、んうああ……自分でパンパンしちやうのおっ……！」

cha0108 ヤラ

「ひっ、あ、あ、あああっ！ 見てっ私の動きいいっ！ しゅごいでしょ……あなたみたいに、腰振ってるのよおっ、あ、あ、あ、っ……イクっ、イクっううううううあああああ……！ ひあああああっ！」

cha0109 ヤラ

「ああああっ！ んんっ、ん、ふうああああ……！ おちんぼビクビクしてるうう

っ！ 中出しオナニーきもちいいよおっ！ ひゃああああん……っ！」

cha0110 セラ

「ああっ！ すごい。あんっ！ ……んああっ……ああっ……くふう……おちんぼオナニー……ふああ……」

cha0111 セラ

「ああ……私……はあ……ふう……今、満たされてる……ふう、んっ、あふう……なに……ジロジロ顔を見て……」

cha0112 セラ

「何も喋らないのはずるいじゃない……ん……全部全部私に決断させて、あ……全部全部私に押し付けて……もし、あなたに少しでも慈悲の心があるのなら……私を嘘つきにさせないで」

cha0113 セラ

「お願いよ……私は、約束を守りたいし、快楽で心を壊したくないのよ……だから、セックスはしてない……あなたを使ったオナニーなのよ……ね？」

cha0114 セラ

「……ありがとう……。また……貸して……欲しい……オナニーするための、あなたの棒を……うふふ……」

cha0043 アイシヤ 「……はあ」

cha0046 ジスニア 「あら、珍しいですね。アイシヤがため息なんて」

cha0044 アイシヤ 「ご主人様が、最近相手をしてくれないんだもの……」

cha0047 ジスニア 「ああ……確かに最近の御主人様は、団員の子たちや町の子たちとばかりです」

cha0045 アイシヤ 「でしょお!? 少し前まではあんなに熱烈に愛してくれてたのに……! んんん
っ、もう我慢の限界だわ! 今日はとっちめてやるんだからあ! 徹底的におしおきし
てあげちゃう!」

cha0048 ジスニア 「いいですね。ちゃんと愛してくれないと怖いということを、しっかりご主人様に教え
てください」

cha0046 アイシヤ 「あら、ジスニアのことだから私も一緒にいきます! とか言うと思ったけど」

cha0049 ジスニア 「私は私で動いていますから……。私のことは気にせずに、思う存分発散してきてくだ
やう」

cha0047 アイシヤ 「わかったわあ。んんっ……もう、ムラムラしてきておさえられない……」

cha0050 ジスニア 「では私は用事があるので……で。頑張ってくださいね」

cha0048 アイシヤ

「ええ、吉報を待っててねえ」

＝【収録メモ】編集時に間。

cha0049 アイシヤ

「今日の仕事は全部終わってるし、ご主人様は呼び出したし、明日の準備も完璧い。うん。これで何一つ憂うこと無く……うふん」

cha0050 アイシヤ

「折角だからサンダルウッドのオイルなんか買ってもよかつ——はっ……違う違う。今日はご主人様をこっそり絞るつもりなんだから」

cha0051 アイシヤ

「でもどうやって攻めるのがいいかしらねえ……普通に押し倒してもご主人様が悦ぶだけだし……」

cha0052 アイシヤ

「焦らしプレイは良さそうだけど、私がガマンできるか不安だわあ……だって……今も待ってるだけで、じっとりきちゃってるしい」

cha0053 アイシヤ

「あつ、来たみたい。不機嫌顔、不機嫌顔、うん。よし」

cha0054 アイシヤ

「……何の用だ、じゃないわ。呼び出した理由、分かるわよねえ？ 私が、どんな思いで……しばらく過してたか……」

cha0055 アイシヤ

「……さ、服を脱いで……話はそれから」

cha0056 アイシヤ

「ん？ 私は服脱がないわよ。脱ぐ必要がないでしょお。ふうん、ほんとになんのことだか分からないって顔してるわねえ……なるほどお？」

cha0057 アイシヤ
「ねえ、ご主人様。随分と団員の子たちや町の子たちに、ご執心のようにけど……最近私
のこと愛してくれる頻度、減っちゃったと思わない？」

cha0058 アイシヤ
「別に私を一番の女にして欲しいだなんて言わないけど……。でもやっぱり、放ったら
かしにされたら嫌だわ……」

cha0059 アイシヤ
「な・の・で。今日は私を放ったらかしにしたお仕置きをしちゃう。あ、動いちゃダメ
よ……。まずはおちんぽから苛めちゃうわよ」

cha0060 アイシヤ
「さすがにいつもみたいなガチガチじゃなくて、ふにやふにやおちんぽね。優しく握っ
て……。シコ、シコ……。あ、むくむく大きくなってきたあ。何度見ても不思議よねえく
……。先っぽも、くにくに……」

ニ 【収録メモ】口の中に唾液をためて、ペニスに唾液を垂らしています

cha0061 アイシヤ
「唾、たらすわねえ……。んえうつ……。じゆるっ、あむうつ、むぐむぐ……。んれえ……。ん
ふ、ニチャニチャエツチな音がしてるわ……。シコシコ……。んふふ、強く握ってほしい？
だあめ」

cha0062 アイシヤ
「いつもご主人様が好き放題揉んでいるおっぱい、今日は私がおちんぽシコシコしながら
弄るわよお……。んっ……。ああ……。ほおら、もおくみもみ。うふふ」

cha0063 アイシヤ
「あん、だめよおく触っちゃ。お仕置きにならないでしょおく？ この悪い手は抓っち
やうんだから……。えいつ。うふふ。大好きなおっぱいが、思い通りにならなくて辛い
っ。」

cha0064 アイシヤ

「クスクス……おちんぼシコシコされながら、んんっ、私が気持ちいいように、はぁん……好きに揉んで、ぁん、感じてるんだからぁく……ふぁぁん」

cha0065 アイシヤ

「おっぱいもおちんぼも思い通りにならなくて辛いわよねえくスクスク……。ほおら、だんだんシコシコが早くなってきたわよぉく」

cha0066 アイシヤ

「乳首、イジイジしてあげるわぁ……コリコリ……んふふ、びくんって反応してるわよぉく」

cha0067 アイシヤ

「もっと乳首、感じさせてあげるわね……んっ、ちゅっ、ぺろ、れろれろれろ……ちゅっちゅっ、ちゅぱっ、んふう……吸ったり舌先で転がすだけでピクピク身体が動いちやってるわよぉく？」

cha0068 アイシヤ

「乳首ビンビンになってるんだもの、んちゅう……シコシコ、れろ、れるん……我慢なんてしないでいいのぉ……ちゅぱ、ちゅぴっ、んちゅう……」

cha0069 アイシヤ

「ぁは、おちんぼビクビクしてるぅ……おっぱいさわるのも好きだけど、さわられるのも好きみたいねえ。んちゅ、ふふっ、シコシコ……れろれろ、ちゅぱ、ちゅぷんっ」

cha0070 アイシヤ

「ぁぁ、おちんぼ反り返って来てるぅ……そろそろイキそうなのね……んちゅうっ……ちゅぱっ、んふ、切なそうな顔、ゾクゾクしちゃうわぁ……はぁん……れろれろ、れろん」

cha0071 アイシヤ

「見られたくないからって、だめよお、そっぽ向いちゃあ……ちゅっ……ね、もつと見せてえ……。んれろお、強く握っていっぱいシコシコしたら、とろけた顔、もつと見せてくれるわよねえ」

cha0072 アイシヤ

「んっ、はあ、ほおら、シコシコ、シュッシュッ、はあん、乳首嚙んじやうんだから……あんむっ……。あはっ、だらしくお口開けちゃって……好きなのねえ……んい……んふふっ」

cha0073 アイシヤ

「シコシコ早くなってきた、我慢できなさそうねえ……もうだめ？ もうだめそう？ んっ、んっ、ああっ、びゅっびゅっするのねえ……いっぱい射精してえ！ んっ、んっ、んっ、んっ、んっ……！」

cha0074 アイシヤ

「ああっ！ ふ、あ、あああああんっ……！ 手の中でビクビクして、熱い精液が
いっぱいだわあ……！」

34

cha0075 アイシヤ

「じゅるっ、ずずっ……れろお……んく……ぐくっ……んはあ、今日も濃くて美味しい……ぺろ、ちゅぴちゅぱ……んく……じゅるる……んはあ」

cha0076 アイシヤ

「今度は、おちんぼ綺麗にしてあげる……あむ……ちゅっ……んんっ、じゅぷっ……んっ、んっ、んぷう……」

cha0077 アイシヤ

「んんっ……んぱっ、はあ……裏筋も、ちゃんと綺麗に……れろろ……んんれろんっ……」

cha0078 アイシヤ
「ちゃんとおちんぼの中の、精液、も、押し、出し、て……んしょ……あは、まだごんなに残ってたわあ。お残したら、もったいないわ……れろ……ちゅぱっ……んふふ」

cha0079 アイシヤ
「はい、キレイになったわあ。うふふん、さすがご主人様。まだまだビンビンのまま——えっ！ きゃんっ！」

cha0080 アイシヤ
「いたた……むううつ、突き飛ばしたわねえ。今日はお仕置きなんだけど……うう、そんな低い唸り声みたいな声で脅したって……だめ……なんだから……」

cha0081 アイシヤ
「ああっ！ そんなに乱暴に服を脱がせちゃダメよ、破れちゃったじゃない……ええ？ この下着は……その……ご主人様のために……選んで、エッチな下着をつけて……あのっ、誘惑したら……うう、私の方を、向いてくれるかなあって……思っ……」

cha0082 アイシヤ
「下着に開いた穴は……えとえと……ご主人様が……いつでも入れられる為の穴で……そのお……やだ恥ずかしいわ……」

cha0083 アイシヤ
「こっちの方が私らしい？ エッチな私でいたら、いっぱいしてくれる？ ああ……はあん……私が間違っていたのね……ご主人様に逆らうなんて……」

cha0084 アイシヤ
「……お仕置き？ そうよね……私はご主人様にお仕置きしてもらわなくちゃいけないわ……。正常位も好きだけど、いつものバックで……奥まで貫いてしてほしいのお……」

cha0085 アイシヤ
「ううん、どっちでも良いわ……ご主人様の物だってシルシをたくさん付けてええ……ふああああんっ！」

cha0086 アイシヤ
「あひいつ……あ、ああ……いきなり……奥までえ……す……おい……あふうつ、んっ……！」

cha0087 アイシヤ
「あつ、そのエッチでギリギリした目……私の知らない快楽を教えてくれる目……あはあ、好き……あふ、ん……ね……、動いてくれないのお……？」

cha0088 アイシヤ
「んんううつ、ふ、あああつ……！　きたあつ……これ、これなのおつ……あ、んんつ、ううああつ……臆内こすれて、ひあああつ……！」

cha0089 アイシヤ
「はああんつ……ご主人様のおちんぽおつ！　あんつ、あんつ、ううつ……入り口から、んんつ、一番奥まで、何度も、コツコツされるうつ……ひ、いあああつんつ……！」

cha0090 アイシヤ
「はああああつ、気持ちいいつ……あんんつ！　あつ、ご主人様のお仕置き、きもちいいよおおおつ……おマンコが悦んでるうつ、んはああつ、んああつ……」

36

cha0091 アイシヤ
「ひいんつ、そんなあつ……おっぱいまで弄られたらああつ……んっ、んんっ、我慢できなく、なっちやううつ……」

cha0092 アイシヤ
「あ、あ、ああつ……んっ、ふあつ、ひああつ……んっ、ん、うううつ……んあつ……はふうつ、う、うううあああんっ……」

cha0093 アイシヤ
「あつ、あつ、あつ、イクっ！　イクうつ、うううううんっ……！　ふあああああつあ、あ、ああああああああんっ……！」

cha0094 アイシヤ

「あふああつ、ごしゅじん、さまあ！ だめっ……いつてるからああつ……！ おま
んごがおちんぼ締めてっ、はあああんっ！ イっちゃってるのおおっ……！」

cha0095 アイシヤ

「だっ、だめえええっ……！ ちくぴコリコリしちやああつ……！ っ、っ……！ ふ
ああっ、ふ、ひあああつ……！ 息、すえなっ……いいいっ……！」

cha0096 アイシヤ

「んふっ、ふ、ふうふううっんっ……！ は、はあっ……あ、あああつ……んっ、んふ
ううっ……！ ビリビリしてええっ、こんなろ、きもひいいよおおっ……！」

cha0097 アイシヤ

「あひいいいんっ……！ ひっぱたらあつ、あ、ああっ、ちくぴいっ……とれちやう
よおおっ……」

cha0098 アイシヤ

「んぐうっ、ひいんっ！ ねじつてもらめえっっ……ひ、ううう……！ ああっ…
…ひやああっ……あ、あああ……」

cha0099 アイシヤ

「あんっ、あ、ああううっ……！ う、んあああつ…… くふっ、あっ、ああっ、きや
ああんっ……ん、んうううっ」

cha0100 アイシヤ

「ふあああ、ゆびい……？ ゆび、ちめるのお？ はあんっ……だいしゅきいっ……「
しゅじんさまの、ゆびいい、あむ、ちゅう、ちゅぶっ……れろっ……」

cha0101 アイシヤ

「あんっ、んむうっっ……ちゅび、んあっ……んええっちゅぶっ、じゅるるっ、んむあ
っ、はあっ……はあっ……んぐうっ……んはああっ……ゆびも、おちんぼもっ……おい
ひいよおおっ……！ あんっ、んああっ……！」

cha0102 アイシヤ

「ひうつ……んっ……んっ……もっとおおっっ……！ あうううつ……またイキそうっ……！ んんあああっ……！ こしゅじんさまもおおっ、イってえっ……中出ししてええっ……！」

cha0103 アイシヤ

「んほおあっ……あ、あああっ……ふあっ、イクううう！ あふううつ、イクっ、あんっ、イクウウウ……あ、あ、あ、ああああああっ……！……！」

cha0104 アイシヤ

「おぐううう……あああっ……！ きてるうう……はあああんっ……っっ……！ せーしきてるのおっ……はあっ……んぐうつ、どぶどぶおっっ、なかにいいっ……！ ん、ん、はうううんっ……！」

cha0105 アイシヤ

「はあっ……あふっ……んっ……っふうっ……んぐ、っはあっ……はああ……こしゅじんさま……はああっ……あなたにはかなひませえん……ふあ……はあ……」

cha0106 アイシヤ

「もう……はあ……ぜんぶ、ぜんぶ、んんっ……こしゅじんさまのお……ために……はあ……」

cha0107 アイシヤ

「わらひはあ……こしゅじんさまのお……はあ……おちんぼだいすきなあ……ふう……淫乱デカ乳女れすう……ふうん……。だからあ……ずっとおそばにい……ふう……おい……ていて……あふ……へらはいいい……」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0051 ジスニア

「(M)ご主人様が他の女の子にかまけて相手をしてくれなくなり、欲求不満な私は夜な夜な路地裏へ行き、オナニーを繰り返していた」

cha0052 ジスニア

「(M)町の男達に、見せびらかすように一人乱れまくる。見られている感覚は、私を高ぶらせてくれるのだった」

【収録メモ】以上、モノログ終了です。

cha0053 ジスニア

「んふふうっ……さすがに3回目となると、始める前からチラチラと男の人達の視線を感じます……。今日もじっくり見て、興奮……させてくださいね……」

cha0054 ジスニア

「ん……あっ……ふう、ん……あん……あっ……もういくつもの視線が……あん、私に集まっていますう……ああっ、私の痴態を……んく、見てくださいい……」

39

cha0055 ジスニア

「こんなにだらしく服を……んふあ……はだけて……はあん……こんな、んくう……路地裏で……ふああ……ご主人様に内緒で……、ふうん……こんな事……」

cha0056 ジスニア

「はあ……んん……んくう……あっ……んっ、んんっ……ふああ……んふ……ああっ……んああうっ……」

cha0057 ジスニア

「見えますか？ あんっ、こんなにぐちよぐちよに、んっ、濡らしていますよっ……っっ……んっ、あっ、あっ、あっ……い、っくうっ、ああっ、イキますうううっ！ー！」

cha0058 ジスニア

「んっ、んっ、んあああああっ…………… ふああっ、あっ……………あひいうっ……………あん
はふ……………はふううん……………」

cha0059 ジスニア

「皆さん……………いかがでしたか？ あらあら、ズボンの前が膨らんでいるようですね、く
すくす」

cha0060 ジスニア

「見るだけじゃなくて、なにかしてくれと言われましても……………困りました。私はもう
満足したので帰ります。なので何もしませんよ？ それぞれでなんとかしてください。
うふふっ」

cha0061 ジスニア

「それではまた……………きやあっ！」

cha0062 ジスニア

「もう……………皆さん腕なんて搦んで……………乱暴なんですから……………悪い子達です。そんなに
あちこちから手を伸ばされても、私の身体は一つだけなんですよ？ 順番です。順番」

cha0063 ジスニア

「あんっ、もう堪え性のない人たちなんですから。しかたないですね……………では、自由に
使ってください。ただし、痛いことはダメです。約束、できますか？」

cha0064 ジスニア

「あっ！ ふふ、逞しい腕しても甘えん坊さんなんですから……………そんなにおマンコ、
したいですか？ しょうがないですね……………うふふ」

cha0065 ジスニア

「んんっ、あっ、ダメですよ。無理やり引っ張っちゃ……………ゆっくりと脱がせてくださ
い。そうそう！ 上手ですよ」

cha0066 ジスニア

「ほおら、おマンコですよ。汚いおちんぼでも入っちゃう、ぬれぬれで熱々の、女の穴です……入りたいですか？ クスクス……。ホント、しょうがない人です」

cha0067 ジスニア

「……ああんっ……ん、んんう、んはあっ……その調子ですよ……あん、もう……あなたはこのっち、お尻の穴なら空いてますよ」

cha0068 ジスニア

「そうそう、仲良くしてくださいね。ん、んんっ、はああ……んんっ！ おマンコもアナルも、おちんぼで埋まっちゃいましたよお……？」

cha0069 ジスニア

「あっ、はああ……んんっ……お腹の中が、かき回されて……すごく良いです……あ
ん、んんっ」

cha0070 ジスニア

「え？ これを口に咥えるんですか？ んふう……、いいですよ……んんっ、あむ……ちゅぷっ……あはっ、何ですかこれ、んはあ……チンカス一杯でお口の中トロトロ
です……あむう、んふう……じゅぷっ……んふう……んふう……」

cha0071 ジスニア

「ほへ？ んんっ……ぷはっ、あなたもですか？ うーん……あなたとあなたは手で我慢してください。んんっ、あひっ……もう他には何も出来ませんよ……んんっ、あふ……」

cha0072 ジスニア

「周りの人は大人しくおちんぼ握りしめて、私をオカズにオナニーでもしててください
いね……あむ。じゅぷ、ちゅぷ……んぐんん……」

cha0073 シスニア

「じゅぷっ、あふ……んぷあ……あん、んんっ、5本のおちんぼさん、んんっ、もつと頑張ってください。ほら、動き、早くなりますよ……？ ああむ……んぷっ、じゅる……じゅぷっ！ んはあ、あんっ、んぷうっ」

cha0074 シスニア

「じゅぽっ！ じゅぷっ！… んぷっ、んん……んは、みんなっ……イキそう、ですね、はんっ、いっぱい、出してくださいね。はあ、れろ、あむう……じゅぷ……じゅる、じゅぷはんっ！」

cha0075 シスニア

「んんっ、んぐううううううっ……！ むううううううっ……！」

cha0076 シスニア

「あふあっ、う、うううっ……！ オス汁いっぱい出てますっ……！ あんんぐっ！？ んんっ、んぐううっ、急に喉の奥までっ……はぷっ！ んんんっ、ずちゅっ、ちゅぷっ！」

cha0077 シスニア

「んんっ、じゅぷっ、ちゅぽっ……んぷあっ！ オス汁シャワーもっとしっかり振り掛けてください……っじゅぷあっ！ ちゅっ、じゅるっ」

cha0078 シスニア

「ふあっ、あああああ……ひ、あああ……身体中……オス汁まみれ……ですうっ……！ はあっっ……あああ……はあああ……」

cha0079 シスニア

「みなさん、んんっ、ふう……満足できましたか……？ また明日来ます。……皆さんがちちゃんという子にっていて、私の気が向けばの話ですけどね。……うふふ」

cha0080 シスニア

「ふう……皆さん射精したらさっさと帰りましたね……ああ、今日も全身ドロドロです。クラクラするくらい濃厚なオスの匂いですね……」

cha0081 ジスニア

「それでも……満足できていません……こんなに沢山の快樂を集めても、全然満たされません……。あつ、ご主人様……どうして、ここに!？」

cha0082 ジスニア

「私、ですか……？ 私は、ご主人様に相手をして貰えないので、他の男性のもので快樂を食っていました」

cha0083 ジスニア

「でも……身体も、心も、ご主人様でないと満足してくれないのです……ただひとり、ただ1本のおちんぼだけが欲しいのです……!」

cha0084 ジスニア

「……あの……こんな路地裏で、ご主人様に当てつけるようなことをしたのに、なんにも言わないんですか？」

cha0085 ジスニア

「私が満たされない身体を……こんなところで持て余すのまで……見通されていた……のですね。ああつ、なんという……私は、手のひらの上で踊っていたに過ぎないなんて……っ!」

43

cha0086 ジスニア

「お願いします……ご主人様。出来ない私に施しをください……! ん、あああつ! 奥まで、ズドンと……きましたあ……!」

cha0087 ジスニア

「ああっ! 幸せが身体を突き抜けて……、これです……これがずっと欲しかったんですううっ……」

cha0088 ジスニア

「あふっ、ふうんっ! そうです……こんなドスケベ変態女、ご主人様でしか満足できません……あは、はあん……んっ! このおちんぼだけあれば……あつ、ああっ!」

cha0090 ジスニア

「あんっ、あっ、ああんっ！ んくううっ……ふ、ああ、ああんっ、ひや、あ、ああっ……あああっ、ひあああっ……」

cha0091 ジスニア

「ふあああっ！ ズコズコ気持ちいいっ……んくっ、んんっ！ 中出し精液が掻き出されてっ、ご主人様だけに満たされるうっ……あんっ！ ひああんっ、ふああっ、あんっ」

cha0094 ジスニア

「はあん……感じて嬉しそうな顔をしてっ……そんなのお……ご主人様にしてもらって、感じないわけ無いですうっ！ これ以上の幸せなんて、あるわけ無いですよおお……っ！」

cha0096 ジスニア

「ひんっ！ あ……おしり、叩いたら……くひいいんっ！ 気持ちいいっ……お尻がジンジン感じちゃいますううっ、んくうっ……あんっ、あひいいんっ……」

cha0102 ジスニア

「ひいんっ、あああっ、もおっ、くううっ！ ごしゅじんさまいがいにいつ、はああんっ！ 抱かれたりしませんんっ！ んふうっ、んんんっ！ くうう、んんっ！ ああああああああー！」

cha0103 ジスニア

「ああああっ！ ああっ、ああっ、イツてるのにいいっ！ まだ、あっ、ああっ、まだイクっ！ い、く、うううううううっっ！」

cha0106 ジスニア

「ああっ！ ご主人様も、いってください、だして、ぐれあのや はああっ、中に出して、んぐうっ！ もらう、まづ、ふああっ！ がまんっ、ぐううっ！ はやく、はやくっ！ はやくっ！ ほしいっ！ ほしいっ！」

cha0107 ジスニア

「はあ、はあ、はあ、イク、ふあああああああんん！」

cha0108 ジスニア

「はあっ！ はあっ！ はあっ！ はあっ！ あっ、くうっ！ はあっ！ はあっ！
こしゅじんさまっ、はあっ、はあ……ふうっ……ふうっ……こしゅじんさま……っ」

cha0109 ジスニア

「はあ……ふう……あ、頭……撫でて……ご主人様……ふう……んっ、ふあ……ああ……
優しくて……強くて……気持ちいい、私の、ご主人様……」

cha0110 ジスニア

「もっとご主人様に満足してもらえるために……あふ、頑張ります……」

cha0111 ジスニア

「裏通り……今度ふたりでイキませんか……？ うふふ、以外でしたか……？ ご主人
様に愛されながらの精液シャワー、気持ちいいのでしょうね……楽しみ、です……っ」

cha0108 アイシヤ 「むう……おそおーい！ 鍛錬が終わったら市場の入口でって言ったのは誰よお…

…」

cha0112 ジスニア 「……まだ市場の入口に着いて5分も経ってませんよ」

cha0109 アイシヤ 「でもおろ、たまにはお昼一緒に食べようって誘ったのはセラじゃない？ 今日のは鍛錬でよく動いたからお腹ペッコペコなのよおろ……」

cha0113 ジスニア 「ご主人様にお仕事を頑張っていること、褒められたのがよほど嬉しかったんですか？ ふふっ、アイシヤも可愛いところがありますね」

cha0110 アイシヤ 「な、なな、なんでその事をジスニアが……ま、まあ、ちょっとした心境の変化っていうの？ ……私の行動全てがご主人様に繋がってるって分かっちゃったから……ね」

cha0114 ジスニア 「恋だの愛だの興味ないわあゝなんて言ってたアイシヤも変われば変わるものです。いえ、良いと思いますよ。こういうアイシヤも」

cha0111 アイシヤ 「うふふ、なんだか照れちゃうわねえ。それだけご主人様が素敵な方なんだものおろ」

cha0115 ジスニア 「ええ、それはまちがいありません。あ、セラが来ましたよ」

cha0112 アイシヤ 「セラあゝおそーい！」

cha0115 セラ 「ふたりともごめんね。色々してたら遅くなっちゃったわ」

cha0116 ジスニア 「あら、ウィルは来なかったんですか？」

cha0116 セラ 「ええ。忙しくて手を離せないらしいわ。一緒に来られるように少し手伝ってたんだけど、終わらなそうだったから3人で行ってきちゃった」

cha0113 アイシヤ 「それじゃあしやうがないわねえ。あとでちょっと食べられるもの持って行ってあげましょ」

cha0117 セラ 「そうね。ありがとうアイシヤ」

cha0117 ジスニア 「では、ウィルのお言葉に甘えて、行きましょ」

cha0114 アイシヤ 「はあ、お腹すいたわあ。今日はたくさん食べるわよー！」

cha0001 ミア (MOB) 「お肉屋さん特製っ！ 美味しいソーセージ、ただ今茹で上がりました」

cha0115 アイシヤ 「ソーセージっ！？」

cha0118 セラ 「首がもげそうなくらい早い反応だったわね……」

cha0002 ミア (MOB) 「あ、戦士団の皆さん！ 茹でたてをおひとついかがですかあ？」

cha0116 アイシヤ 「おひとつ頂くわあ。ここの特製ソーセージ美味しいのよー……おすすめはソーセージをパンに挟んで、大きく口をあけてあむーっと食べる食べ方！」

cha0119 セラ 「へえ、変わった食べ方をするのね」

cha0117 アイシヤ 「聞くとところによるとお、行商人がこの食べ方を持ち込んだらしいわよね？」

cha0118 ジスニア 「お肉に関する知識だけは常人離れていますよね……どこからそんな情報を仕入れてくるのです……？」

cha0118 アイシヤ 「そんなの教えられるわけ無いでしょう？ うふふっ」

cha0003 シア (MOB) 「このソーセージは強い男性の象徴を象っていて、女性の幸せや繁栄を願って作られているんですよ。あの方クローズ様の発案がこんな形で皆さんのお役に立つなんて、素敵ですよ」

cha0119 ジスニア 「あの方は最近いろんな事をされていますからね。あちこちのお店からひっぱりだこみたいですよ」

cha0004 シア (MOB) 「あの……、クローズ様にお会いしたら、またよろしく願いしますとお伝えください……」

cha0120 ジスニア 「ご指南頂く機会があれば伝えておきます。では私も一つください」

cha0120 セラ 「ジスニアも買うのなら、私も。さ、あっちのベンチで食べましょう」

ニ 【収録メモ】編集時に間をあけてください。

cha0119 アイシヤ 「んふ、美味しそうねえ」

cha0121 セラ 「歩きながら中身を開けるなんてお行儀が悪いわよ」

cha0120 アイシヤ 「だってえ、この特製ソーセージ、まるでご主人様のおちんぼみたいだものお」

cha0121 ジスニア 「わ、ホントですね、ご主人様のおちんぼと瓜二つ……。女性のためのソーセージ、っていうのがご主人様らしくて素敵です」

cha0122 セラ 「似過ぎてて、ちょっと齧り付くのに勇気があるわね」

cha0121 アイシヤ 「口いっぱい頬張ったら、ビュービューお汁が吹き出してくるんじゃないかしら……
ああ、もう我慢出来ないわあ。あーむっ……むぐむぐ……んんっ！ さいつこうー！」

cha0122 ジスニア 「アイシヤ、もう食べているんですか……では、私も」

cha0122 アイシヤ 「んんっ！ 濃いお汁が口の中いっぱい……はあ……美味しいわあ……」

cha0123 セラ 「アイシヤ、言い方よ。言い方……ん、んー！ でも味は、なるほど。これは美味しいわ」

cha0123 ジスニア 「香辛料が多めで、キリッとはつきりした味です。ああ、味でもご主人様を感じられます……」

cha0124 セラ 「あ、見て。これを買ったお店、列ができてるわ」

cha0124 ジスニア 「ご主人様の手掛けたお店はだいたいこの調子ですね。商才もあって、判断も早くて…

…ご主人様の功績は町のいたる所にあります」

cha0125 セラ

「純粹に慕っている人も多いみたいだしね」

cha0123 アイシヤ

「んむう……なんだか気に入らないわ……」

cha0125 ジスニア

「ええ……どんどん遠くに行っちゃう感じです」

cha0126 セラ

「あら、二人ともヤキモチ？ ふふっ、かわいいわね」

cha0124 アイシヤ

「なによおセラ。さっすが既婚者は余裕ね」

cha0126 ジスニア

「と見せかけて、強がりだったりして」

cha0127 セラ

「う、うるさいわねっ！」

cha0125 アイシヤ

「ふふふ……今思うと、なんでこの町はご主人様とあんなにいがみ合っていたのかしらあゝ」

cha0128 セラ

「ホント、なんでだったかしら……もう覚えてないわ」

cha0127 ジスニア

「そういえば今度功績を讃えて、ご主人様の銅像が建立されるっていう話もあるみたいですよ？」

cha0126 アイシヤ

「ならもつと私達もご主人様を応援しないといけないわあゝ。まずはソーセージもう一本買って来るところからねえゝ」

cha0129 セラ

「あ、まって。私も行くわ！」

cha0128 シスニア

「お付き合いします」

cha0129 ジスニア

「みなさん、本件の状況を整理しますよ。……まず発端はご主人様のエッチがとても良い、という事がアイシヤの口から一部の団員に漏れた、で間違いないですね」

cha0127 アイシヤ

「そうなのよお……うつかりしてたわ……」

cha0130 ジスニア

「で、ご主人様に抱かれると、女としての自信を得ることが出来る、なんて噂が戦士団に蔓延。抱かれない子が大挙して相談に来ている、と」

cha0130 セラ

「パワースポットじゃないんだから、ご利益的なものなんてないのに……」

cha0131 ジスニア

「そしてこの騒動がご主人様の耳に入って、私達に品定めをしてみろ、と仰ったわけですね」

cha0131 セラ

「人を見る目を養ういい機会だ、ってニヤニヤして……あれ、絶対楽しんでるわ」

cha0128 アイシヤ

「なんでご主人様を取り合う相手を、自分達で選抜しなきゃいけないのよおっく！」

cha0132 セラ

「でもまあ……こんな視点で人を見る事なんてないから、人の上に立つ者としていい鍛錬になりそうだわ」

cha0132 ジスニア

「我が団長はやる気ですよアイシヤ。腹を括りましょう」

cha0129 アイシヤ

「もうこうなったらヤケよお！ ばしいっと名器を見つけ出して、ご主人様に褒めてもらうしか無いわあっ！」

cha0133 ジスニア 「そうそう、その調子です」

cha0133 セラ 「それじゃ決定ね。特別鍛錬部屋で、壁尻品評会よ！」

cha0130 アイシヤ 「おーー!!」

≡【収録メモ】数秒間を空けてください。

cha0005 アニ(MOB) 「団長。準備が整いました」

cha0134 セラ 「アニ、ありがとう。あなたも自分の準備を」

cha0006 アニ(MOB) 「はい、今日も、その……よろしくおねがいします！ ではっ……のちほど!!」

cha0131 アイシヤ 「あら、アニちゃん真っ赤な顔をして走っていくなんてかわいいわぁ〜ん」

cha0134 ジスニア 「最初の特別鍛錬を受けたメンバーは、少し間が空きましたからね」

cha0132 アイシヤ 「ああん、私達を待ちきれないのねえ……なんて可愛い子達かしらぁ〜」

cha0135 ジスニア 「随分と参加者が増えましたね。壁一面全部お尻です……」

cha0135 セラ 「薬は使ったの？」

cha0136 ジスニア 「もちろん。先に配って、飲んでもらっています。ほらみてください、全員、おまんこからとろとろのお汁をこぼしちゃってるでしょう?」

cha0133 アイシヤ
「ホカホカに暖まっていそうねえ。お尻ももじもじしてるし……うう、見てるだけで、
たまらないわぁ」

cha0136 セラ
「ほんとうに……こんな景色、ここでしか拝めないわ……最高ね。よし、始めましょ
う！」

cha0134 アイシヤ
「セラあーちよつとまってえー。今日はいつもと趣向を変えて双頭ペニバンちゃんは使
わないわあー。我が愛しき猛りよ！ 女を穿つ淫柱となりて舞い降りよ！ そおーれ
えーっ！」

cha0137 セラ
「な、何！？ やだ、男の人の股間に生えてきたわよ！？」

cha0137 ジスニア
「こ、これは……ご主人様のおちんぽ……」

cha0135 アイシヤ
「正解いー。男の人の気持ちよさを知らずして、名器の発掘なんて不可能っ！ なの
で、ちよちよいと、ね」

cha0138 セラ
「アイシヤ、こんな変態召喚魔法まで覚えるなんて……」

cha0136 アイシヤ
「うふふ、やだあー。召喚魔法じゃないわ、ただの模倣魔法よおー」

cha0139 セラ
「変態は否定しないのね……まあいいわ。よし、行くぞ！ 突撃いっ！」

cha0137 アイシヤ
「突撃いー！ あら、このモジモジと可愛いおしりは……」

cha0006 フィオナ (MOB) 「あ、はい、アイシャさん、お願いしますう……っ」

cha0138 アイシャ

「うふん、フィオナちゃんの鍛錬の成果、ちゃんと出てるか確かめてあげるわあ……ん、んんっ……ぬぷって入るとき、こんな感覚なのねえ……あはあ、これは良いわあっ！」

cha0007 フィオナ (MOB) 「はああんっ、熱いのが入ってきて……んんっ、作り物とは全然っ……ああんっ！」

cha0139 アイシャ

「んっ……んっ……、はあっ、ぎゅうぎゅうと締め付けて……あんっ、いい感じよお、ああんっ！ 搾り取られるって、こういう感じなのねえ、ああんっ！」

cha0140 アイシャ

「フィオナちゃんの、あふうっ！ おマンコのうねりが、んんっ……おちんぽを、んううっ、ぐにゅぐにゅ捏ね回して……んうう……ああっ！ すごいわフィオナちゃん、んくうううっ」

cha0138 ジスニア

「アイシャはフィオナを随分お気に入りなようですね。じゃあ私はこの肉付きの良いお尻にしましょうか。このエッチなお尻のお名前は何ですか？」

cha0001 レジーナ (MOB) 「あ、レジーナと言います……あの、ペチペチとお尻を叩かないで、ください……」

cha0139 ジスニア

「まず手触りを確認しているのです。うん、肉付きが良くて弾力もある。良いお尻です
す」

cha0002 レジーナ (MOB) 「あ、ありがとうございます……そんなに私のお尻良いですか……？」

cha0140 ジスニア

「むっちりお尻は初めてお相手しますが、外面は申し分ないですね。女性らしくてずつと撫で回していたいくらいですが、そうも行かないので、内面の方も確かめていきますよ」

cha0141 ジスニア

「んふう……キツすぎずねっとりとした膣内が絡みついて、んん……背筋がゾクゾクしてしまいます……」

cha0142 ジスニア

「ふあああつ、くうつ、随分と余裕があるおまんこですね……あんつ。なんだか悔しいのでクリトリスも弄ってあげましょう」

cha0143 ジスニア

「くうつ……はあつ、今度はじつくりと、でもしっかり締付けて、これは堪りません……あああつ！ 背筋にビリビリって、はああんつ！ 電気が流れるようなつ、んんんつ！

cha0144 ジスニア

「それに、ふうんつ……おちんぼの根本から先っぱまでザワザワと、はあんつ！ 絡みついて……んくうっ！」

cha0140 セラ

「ジスニア、レジーナにヤれっぱなしじゃない。そんなにすごい子なのかしら……？ じゃなくって、私も早く鍛錬をする子を選んであげなくちゃ……」

cha0001 エリー (MOB)

「あのっ！ 団長！ 私を！ 私をお願いします！」

cha0141 セラ

「ピコピコと元気のいいお尻だわ……お名前は？」

cha0002 エリー(MOB) 「エリーと言います！ 団長に憧れて戦士団に入りました！ 団長の勇姿に、きやあんっ！ なぜっ、お尻を叩い——」

cha0142 ヤラ 「聞いてもないことをキャンキャンとうるさいお尻。相当キツく舐けなくちゃダメだわ……狙いを定めて、一気に攻め込むぞ！ ふうんっ！ んはあっ！ キツくて生意気なおマンコね！」

cha0003 エリー(MOB) 「あっ！ くううんっ！ ああっ！ 団長お！ んんんっ、痛いですうっ！」

cha0143 ヤラ 「うるさい！ この程度で音を上げて、少しは耐えて見せたらどうだ！ ふんっ！ ふんっ！ くうっ、食い千切りそうなくらい締め付けてっ、私の進行の邪魔をするつもりかっ！ ああっ！ あふっ！」

cha0144 ヤラ 「くうっ！ 後ろから突く度に、尻をぶるんぶるんと揺らしてっ！ このっ、このっ！ それで私を挑発しているつもりかしら？ あっ、はあんっ！ くうっ……返り討ちにしてあげるわっ」

cha0145 ヤラ 「もっと自ら腰を押し付けてっ！ 快感を増幅させてみろっ！ ふんっ！ ああっ、んうう……そうだ！ やれば出来るじゃないか！ 私に鍛錬してほしかったのなら、いいところ見せるんだ！ くうっ、あんっ！ ふんっ！」

cha0145 ジスニア 「はあっ、みんないつもと違うから、とても乱れますっ、んくううっ、こんな快感っ、長くもたな、あああんっ！ はあ、もうだめっ！ もたないですうっ！」

cha0146 ヤラ 「ジスニア、だらしないわよっ！ んくうっ、ああんっ！ もっと気合をっ、あんっ、んんんんっ！」

cha0141 アイシヤ

「んくうっ、セラも全然、あああっ！ 余裕ない、でしょおっ！ はああんっ！」

cha0147 セラ

「だってえっ！ はあんっ、んんっ、くうっ……ふああっ！ おちんぼが気持ちよくなるのよおおっ！」

cha0142 アイシヤ

「はあっ！ ああっ、だめっ、私もうだめっ！ フィオナちゃん気持ちよすぎてえっ！ ああっ、ああんっ！ んっ、んんんっ、おちんぼ反り返って……っ！ 射精なのお？ これが射精しそうな感覚なのねえっ！」

cha0146 ジスニア

「ああんっ！ あっ、あんんっ、私も、もうだめですっ！ ああんっ、こんなむっちりおマンコ、耐えられ、な、いいいんんっ！ はああああんっ！ 射精っ！ 射精しちゃうううー！」

cha0148 セラ

「あああっ！ ああああっ！ はあああああああんんんっ！」

cha0001 フィオナ&レジーナ&エリー（MOB）「あああああはああああっ……！」

cha0149 セラ

「はあ……はあ……んんっ、ふああ……すじ、かったわ……それに射精の感覚、私ちよっと好きかも……あふ……」

cha0147 ジスニア

「分かります。んっ、びゆるびゆる出てる感覚、んふう……あんんっ、なんというか、充足感がすごいです。ああっ……はあん……おちんぼでのセックスがこんなに、んっ、あふ……いいなんて……」

cha0143 アイシヤ 「うふふ……んっ、ああ……やつぱり名器選びなら、あん……こうでなくっちゃ……
ね」

cha0150 セラ 「私達も、まだまだ鍛錬が足りないわね……ふう……ふう……。よし、次行くわよ……
っ！」

cha0144 アイシヤ 「んふ……、アニちゃんがセラのことお待ちかねよぉっ？」

cha0151 セラ 「あっ……わ、分かってるわよ……。そうだアニ、あなたとフィオナは仲良しだったわ
ね。今日は特別にふたり一緒に相手になってあげるわ！ ……さあ、どんな鍛錬が良い
か、申告なさい」

cha0007 アニ(MOB) 「あぁっ、はいっ……団長のおちんぼで、私とフィオナのおマンコを掻き回して、く
ださいい……っ」

cha0152 セラ 「よし。では、アニが先鋒だ。……では鍛錬を始めるっ！ フィオナも休ませはせん
ぞ！」

≡ 【収録メモ】次の文章のみ。モノログでお願いします。

cha0153 セラ 「(M) こうして、すべてのお尻に挿入し、私達は心ゆくまで壁尻女達を堪能していく
——」

cha0154 セラ 「はぁ……はぁ……んくっ、はぁ……たぶんこれで、全員ね……」

cha0145 アイシヤ 「んぁ……そ、そうなお……？ 途中からそんなの、考えてなかったわ……」

cha0155 セラ 「実は私もかなり記憶が怪しいわ……ひたすら夢中になってセックスをしていたもの…
…」

cha0148 ジスニア 「おちんぼの快感はすごかったですから、夢中にならないほうがおかしいです。あ、見てください……夜が明けます……」

cha0156 セラ 「ああ、ホントね……なんて清々しい朝……枯れそうなほど射精したら、世界も違って見えるのかしら。達成感もひとしおね」

cha0146 アイシヤ 「おちんぼもふにやふにやで満足げだわ、うふふ」

cha0149 ジスニア 「団員の子たちも、精液と愛液をおマンコから垂らして満足ですよ」

cha0147 アイシヤ 「朝日に照らされてみんなキラキラしてるわあく……ちょっと幻想的に見えるわね」

cha0150 ジスニア 「やはり、ご主人様の言うことは、何でも正しいのですね……すっかり私達が愉しんでしまつて……」

cha0157 セラ 「そうね。でも、だからどの子がどんな悦ばせ方をしてくれるか、今なら分かるもの」

cha0148 アイシヤ 「ふふ、セラ自分が何言ってるか分かってる？」

cha0158 セラ 「団員たちの事が手に取るように分かる、っていう話でしょ？ 自分たちで直接、団員たちと肌を重ねる重要性を思い知ったわ」

cha0151 ジスニア

「あ、セラのおちんぼがピクってしましたよ。まだやる気ですか……？ 私はもう無理ですよ……」

cha0149 アイシヤ

「今やる気を出しても、もうだめよ。もうすぐ魔法が切れて、おちんぼ無くなっちゃうから」

cha0159 セラ

「それは残念だわ……。では今度、直接指南してもらいましょう。その時にまたこの魔法をお願いするわね」

cha0150 アイシヤ

「ええ、言ってくれば、いつでも掛けてあげるわあ」

cha0160 セラ

「これでこの戦士団も安泰ね……。なあ、もっともっと強くなるわよっ！」「

【収録メモ】以下の文章のみ、モノローグでお願いします。

cha0161 セラ

「(M)それから私達は、同時期に妊娠、出産をし、育児に追われる毎日を送っている。そして今日、久しぶりに3人で集まり、赤ちゃんをお披露目し合う会を開いたのだった——」

cha0162 セラ

「もうジスニアとアイシヤは来てるかしら……。ふたりはどんなママになっているのかしら……」

cha0163 セラ

「ごめんねっ、遅くなっ——」

≡ 【収録メモ】以下指定があるまで全員ウイスペーパーボイスでお願いします。

cha0161 アイシヤ

「しいー。今やっとベビちゃんが寝たところだから、静かにいー」

cha0164 セラ

「あーっ、ごめんー。あら、ジスニアも寝ちゃってるのね」

cha0162 アイシヤ

「ベビちゃんの夜泣きに随分やられちゃってるみたいよ」

cha0165 セラ

「ふふっ、なるほど、それなら仕方ないわ。この子もなかなか手厳しいわよ」

cha0163 アイシヤ

「あら、そうなのおー？ そんな風に見えないけどねー。大人しく抱っこされて、いい子じゃなあーい」

≡ 【収録メモ】全員ウイスペーパーボイスここまで。

cha0154 アイシヤ 「あつ、ああ〜ごめんね〜起こしちゃったわね〜……よい、しょ。よいしょ。い子ねえ〜。ママはここにいるわよお〜？ ほらほら、泣かないで」

cha0166 セラ 「あらあら、うちの子も釣られて泣いちゃったわ。あつ、ジスニアベビちゃんも起きちゃった」

cha0152 ジスニア 「ん……あ、セラ来てましたか。あら、起きてしまったんですね。よしよし、抱っこしてあげましょう」

cha0167 セラ 「ごめんね、寝坊して遅くなっちゃって。あーあー……みんな泣きわめいてるわ。お腹すいたのかしら」

cha0153 ジスニア 「そうですね。そろそろおっぱいの時間です」

cha0155 アイシヤ 「うふふ、まってねえ〜。今ちゅばちゅばさせてあげまぢゅからね〜」

〃 【収録メモ】編集時、少し間を空けてください。

cha0168 セラ 「ああつ、すごい吸い付いてくる……！ ふふつ、美味しそうに飲んでるわね……」

cha0156 アイシヤ 「我が子が、夢中になっておっぱい飲んでるこの時間……私一番好きかもお〜」

cha0154 ジスニア 「私もホッと気が抜けて、よく寝ちゃいます」

cha0169 セラ 「寝不足になりがちだし、ついウトウトしちゃうわね。……でも二人とも元気そうだよかったわ。赤ちゃんにもやっつと会うことが出来たし」

cha0155 ジスニア

「セラの赤ちゃんは……セラ似ですね。もはや生き写しレベルです」

cha0157 アイシヤ

「ほんとセラにそっくりねえ……ウィルとご主人様、どっちの子なのお？」

cha0156 ジスニア

「久々の再会でそこに触れますか……」

cha0158 セライイシヤ

「うふふ、それはね——」

≡【収録メモ】編集時、間を空ける

≡【収録メモ】次の文章のみ。モノログでお願いします。

cha0170 セラ

「(M)お互いの赤ちゃんを見せ合って、しばらくしてからのこと。少しは気を抜いた方がいいとアドバイスしてくれた夫、ウィルに子供を預けた私は、同じようにウィルに子供を託したジスニアとアイシヤと合流して、町を歩く」

cha0171 セラ

「ひっさしざりだわゝ、うゝん、今日はがんばるわよー！」

cha0157 ジスニア

「はい、気合いをいれてのぞみましょう。というわけで、いつもより強力なおくすり、用意しておきました」

cha0159 アイシヤ

「わあお！ それって、体に負担とかかけない？」

cha0158 ジスニア

「大丈夫です、負担なく、楽しめるおくすりに仕上げましたから」

cha0172 セラ

「さすがはジスニアね。たのしみだわ」

cha0159 ジスニア

「ええ、子供がいなくなった子宮を、たぶんたぶんにして帰るとしましょう!」

cha0160 アイシヤ

「うふふ、あの人……ご主人様なら期待に応えてくれるわよ……さっ、いくわよ!」

cha0160 ジスニア

「はい!」

cha0173 セラ

「ええ!」

【収録メモ】次の文章のみ。モノローグでお願いします。

cha0174 ヤリ

「(M) 私達は、幸せな日々を送っていく。今までも、そしてこれからも……!」